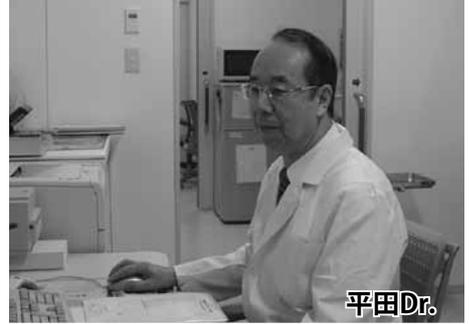


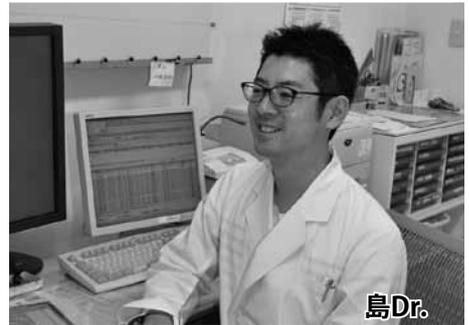
知っておきたい乳がん関連最新情報①

～日本の乳がん患者の特徴と早期発見のための検査について～

外科出張医（J R 札幌病院顧問、乳腺専門医） 平田 公一
外科出張医（札幌医科大学乳腺外科助教、乳腺専門医） 島 宏彰



平田Dr.



島Dr.

● 7月の救急医療機関 ●

平日

電話で時間外診療の協力医療機関をお知らせします。

時間外夜間急病テレホンセンター
Tel.22-2299

休日

【内科・小児科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
市立病院
Tel.22-4311（大町2-2）

【外科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
5日(日) 滝川脳神経外科
12日(日) 市立病院
19日(日) 滝川脳神経外科
20日(月) 市立病院
26日(日) 滝川脳神経外科
※市立病院
Tel.22-4311（大町2-2）
※滝川脳神経外科
Tel.22-0250（西町1-2）

【歯科】

診療時間 9時～12時
5日(日) 多比良歯科医院
Tel.54-3510（砂川市東7南5）
12日(日) Eデンタルクリニック
Tel.24-9469（緑町1-5）
19日(日) グリーン歯科クリニック
Tel.54-3434（砂川市西3北4）
20日(月) はらおか歯科医院
Tel.22-5678（花月町1-9）
26日(日) 幡歯科医院
Tel.52-3348（砂川市東2南4）

日本での乳がん発生頻度は増加の一途をたどり、女性では1位のがん発生率となっております。高頻度年齢層としては、40歳代と50歳代であり、一家の大黒柱あるいは職場の重責を担っている年代に多いことが特徴です。市民の皆さんには、老若男女を問わず、いざという時のためにどうすることが大切なのかを一緒に考えていただきたくご紹介いたします。

【どうして乳がんは増えているのか？】

日本の乳がん患者数の急増状況の背景として、食生活様式や生活習慣の欧米化、生活環境上の化学的・物理的刺激要因の相乗作用が想定されています。また、新たな話題として遺伝子要因に

よる発生も知られるようになっていきます。

まず、日常生活上では、家族そろって禁煙に努めることが推奨されます。また、飲酒は控えめな量に、閉経後の肥満防止、軽い運動習慣、きちんとした糖尿病管理などが勧められます。また、出産未経験者や高齢初産者では発生リスクが少し高く、定期的乳がん検診を受けていることが早期発見につながり、早期発見ほど治療成績が良いことが知られています。

【早期発見のためにはどうするとよいか？】

40歳以上の女性において、集団検診の一環としてマンモグラフィが行われています。しかし、マンモグラフィが万能とは

言えません。定期的検診で前回との比較ができることも大切です。マンモグラフィ施行者の約10人に1人は精密検査が必要で、精密検査を受けた50人に1人が乳がんの可能性があるという統計結果も出ています。また、検診で「異常なし」と言われた2,500～3,000人に1人は1年以内に乳がんが見つかっています。マンモグラフィ検診を支援する検査として超音波検診があり、より詳細な検査結果が得られます。

精密検査となった場合は超音波検査を行い、細胞あるいは組織を顕微鏡で検査する必要があります。必要に応じてつかを決定します。必要があるかと判断された場合は、注射針サイズの針あるいはそれよ

りもやや太い針を刺して細胞や組織を採取し、細胞診・組織診という検査へ提供します。この検査では、異常な病巣部の特徴を把握できます。例えば、がんであるとか良性腫瘍であるとかです。がんと診断された場合には、ほかの臓器・組織への転移の有無をCTやMRIなどで確認した後、状況に応じて適切な治療方針が立案され、インフォームドコンセントにより治療が開始されます。

早期発見のための検診を含めて、私たちが市立病院で月2回乳腺専門外来を担当しています。どうぞご承知いただき、ご利用ください。

※医師が病状や治療方針を分かりやすく説明し、患者の同意を得ることで